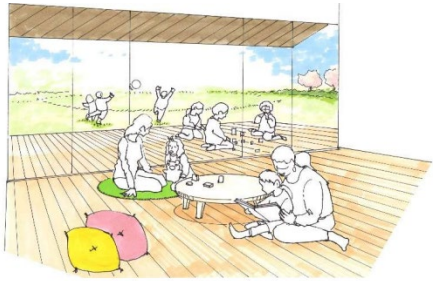
令和2年度・事業育成型

インクルーシブな多世代交流拠点の計画・運営のためのコンソーシアムの構築

令和3年度・事業者提案型

インクルーシブな多世代交流拠点整備事業



令和3年3月16日

今野不動産株式会社

今野不動産株式会社　ご紹介

「伝統と信頼」そして地域のために。―　原点　―

今野家の発祥は約400年前。
伊達政宗公の仙台藩開藩と同時に、伊達家の家臣として京都から仙台へ移り住んだところから始まります。

伊達家から受け継いだ広大な土地は、やがて、8代目当主の今野幸治郎によって、第二次世界大戦末期の空襲から仙台市民を守るための防空壕の建設や、家を失った人々へ安らげる住まいの提供、荒れ果てた仙台の復興のために、市に土地を寄贈するなど地域のために活かされることになりました。

また、戦後の暗く、悲しみに沈む人々の心に潤いを取り戻したいと願った幸治郎は、現在の榴岡や桜ヶ丘に桜並木を蘇らせるなど、戦後の復興に尽力いたしました。

愛する街、そこに住まう人々を守り、
いつの日か街に繁栄と幸福を必ず取り戻す。
それが、今野不動産の原点です。

□仙台市東部沿岸部の集団移転跡地利活用について

インクルーシブな多世代交流拠点整備事業

□本事業のきっかけ

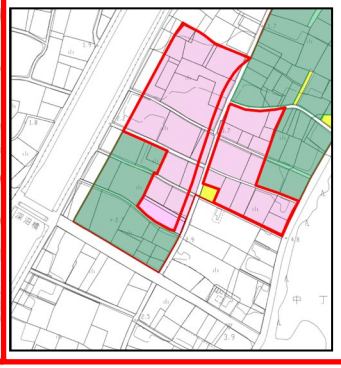
仙台・荒浜地区

〈震災前〉
約750世帯
約400年の歴史
貞山堀・海水浴場
松林・半農半漁
お裾分け文化
新興住宅も多数

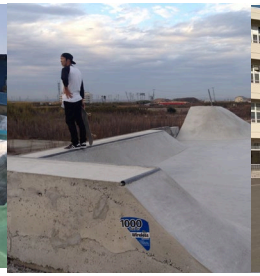
〈被災・震災後〉
死者186名
流出家屋９割以上
災害危険区域指定
全世帯移転
コミュニティ崩壊
災害公営で孤独死発生

荒浜移転跡地利活用計画と地区の現状

計画敷地（現況写真）



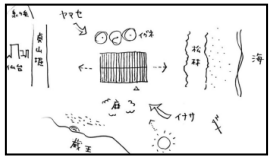
旧荒浜住民の自宅跡地（現状）
（海辺の図書館・漁師番屋・スケートボードパーク）

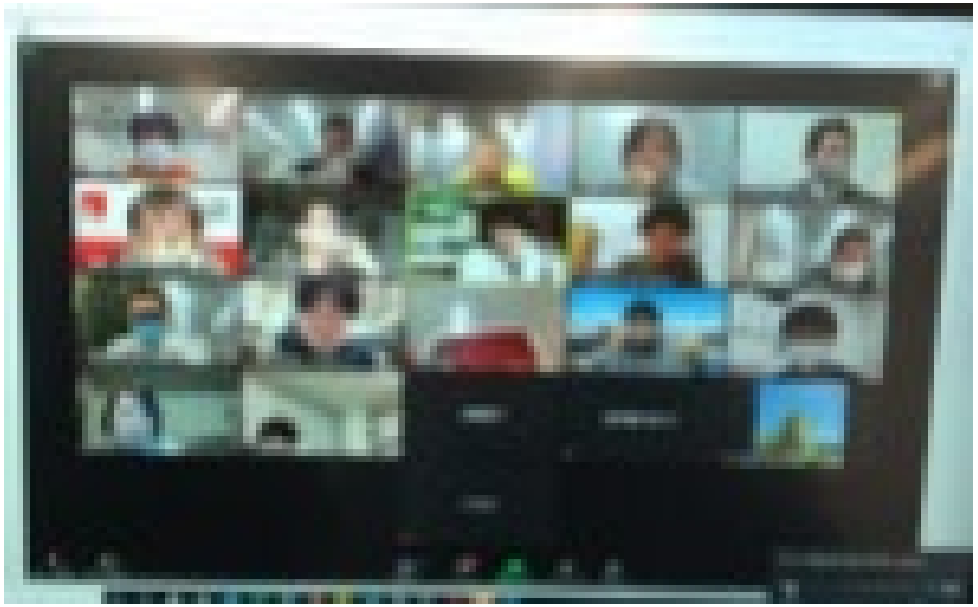


震災遺構・旧荒浜小学校

インクルーシブな多世代交流拠点整備事業

□昨年度の事業育成型による成果

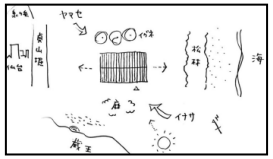
目的	事業コンソーシアム立ち上げと協議会開催・計画検討	旧荒浜住民及び地域活動団体とネットワーク形成・トライアルイベント等の「荒浜記憶の継承みらい会議」開催	事例視察やコミュニティファームを中心としたグランドデザインの基本計画策定
実施時期	令和3年2月23日～令和3年4月30日	令和3年3月14日	令和3年2月23日～令和3年4月30日
実施場所	NTTスマートイノベーションラボ仙台・ZOOM	荒浜海岸公園センターハウス・海辺の図書館・ZOOM	協議会終了後他、ZOOM等による計画検討や6か所の事例現地視察
実施体制	福祉事業者3社、NPO3団体、文化事業者3名、建築家3名、大学2研究室、不動産事業者、メディア事業者、大手通信企業	地域活動団体や旧住民を含め福祉・まちづくり等を専門とする大学・企業・NPOなどの事業コンソーシアム代表提案者他、建築系大学研究室＋ランドスケープアーキテクト等	代表提案者他、建築系大学研究室＋ランドスケープアーキテクト等
実施内容と成果	情報共有、意見交換する協議会（ララ荒浜コンソーシアム）を立ち上げ4回開催。情報共有、意見交換を行う。また、終了後、建築系大学研究室＋ランドスケープアーキテクト等にて計画検討も行った。 ・「インクルーシブ公園」の理念とその具体事例、計画プロセス等の詳細を把握することができた。 ・深沼ビーチクリーン（砂浜清掃）の参加者数推移、隣地市民農園の利用状況等の情報が得られ、当地へ来場需要の高さが確認できた。 ・福祉事業者によるインクルーシブ公園、コミュニティファームなどについて、放課後デイサービスの一環として、平日の利用の可能性が伺えた。なお、子連れ（障がい児含む）家族等が利用しやすい施設となる見通しが得られた。	現地参加者12名・オンライン参加者23名・登壇者7名・報道1名・スタッフ6名合計49名参加。 第一部 元住民や他の跡地利活用事業者の一部から、同計画に対する不安や懸念の声が聞こえていたが、トークイベントに旧住民、他の跡地利活用事業者などと顔を合わせて意見交換できたことで、関係主体間相互の信頼、協力関係を強化させることにつながった。 第二部 これからの荒浜再生における指針を共有。事例紹介や本事業の内容の情報発信を含めた新たな荒浜の文化とコミュニティづくりへのトライアルイベントとなった。 2021/03/14 荒浜記憶の継承みらい会議	協議会での議論・元住民へのヒアリング、6か所の事例現地視察、文献レビューなどを通して基本計画の検討を行った。 インクルーシブ公園の概要をはじめ、特に視察からはコミュニテファームやコワーキングスペース・シェアキッチンの具体な施設整備イメージの検討を行えた。 ▲ 2021/02/24第一回協議会 ▲2021/4/17からほり悠シェアキッチン視察 ◀2021/04/27 イシノマキファーム視察
次年度事業への提案反映	・インクルーシブ公園 ・カフェ・コワーキングス、シェアキッチン ・コミュニティ（ソーシャル）ファーム ・海辺の環境資源の有効性 等々、具体な施設等種別を計画することとなった。	震災前の荒浜の町並みや暮らしの共通点を「暮らしの方向感覚」や「祈りの場のしつらえ」をエッセンスとして、施設配置計画に反映させることができた。 	かつての荒浜の家並みを彷彿させる切妻屋根のパーゴラを施すことや施設機能の計画については、カフェやシェアキッチンの施設を中心に、広場と一体化したインクルーシブ公園、コミュニティファーム等の配置。また、景観スタディを通して、暮らしの気配を想起させるデザインを取り入れられた。



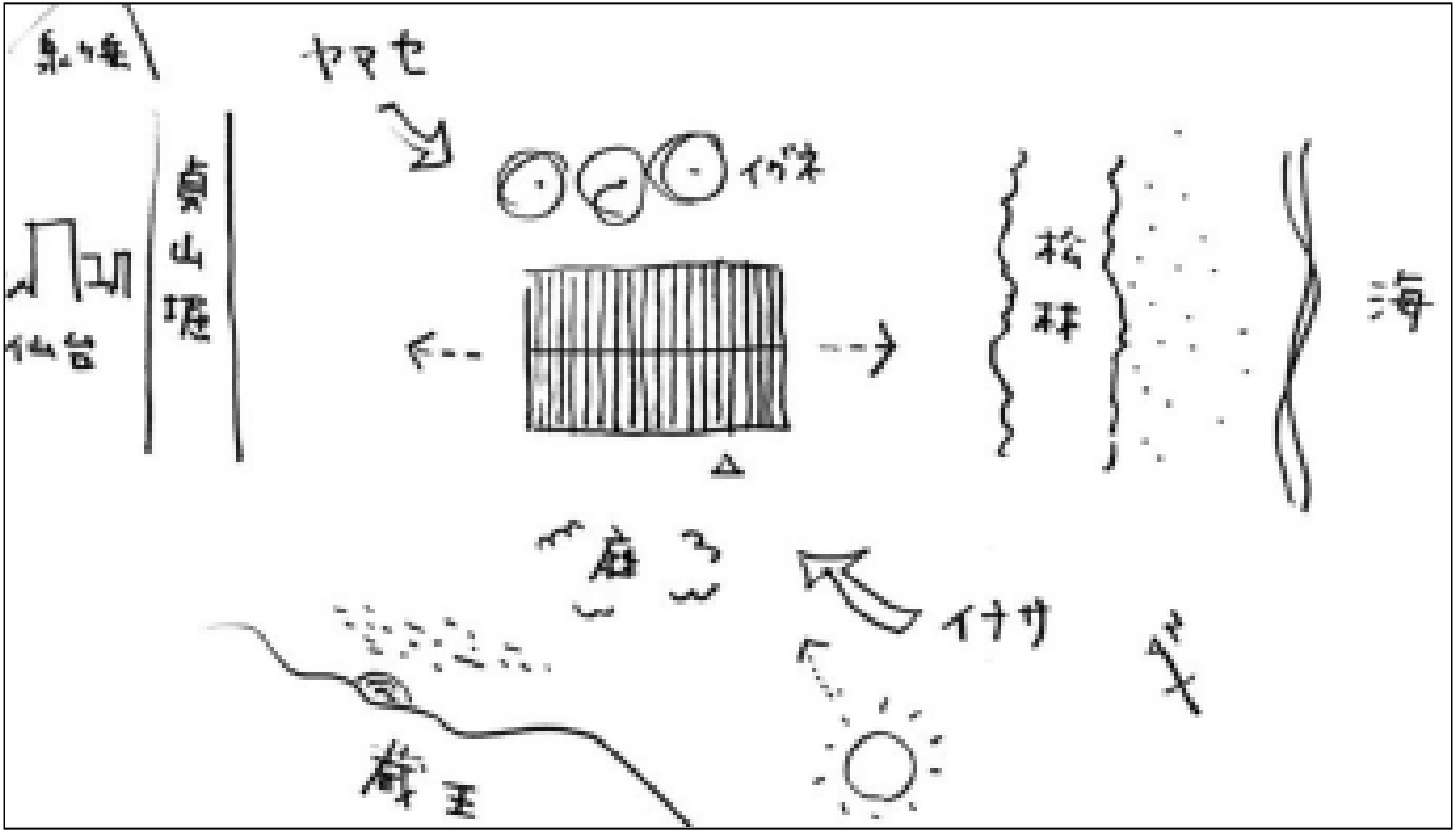
2021/02/24　第1回協議会

インクルーシブな多世代交流拠点整備事業

□昨年度の事業育成型による成果

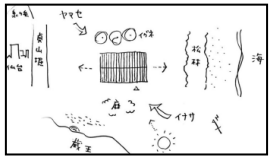
目的	事業コンソーシアム立ち上げと協議会開催・計画検討	旧荒浜住民及び地域活動団体とネットワーク形成・トライアルイベント等の「荒浜記憶の継承みらい会議」開催	事例視察やコミュニティファームを中心としたグランドデザインの基本計画策定
実施時期	令和3年2月23日～令和3年4月30日	令和3年3月14日	令和3年2月23日～令和3年4月30日
実施場所	NTTスマートイノベーションラボ仙台・ZOOM	荒浜海岸公園センターハウス・海辺の図書館・ZOOM	協議会終了後他、ZOOM等による計画検討や6か所の事例現地視察
実施体制	福祉事業者3社、NPO3団体、文化事業者3名、建築家3名、大学2研究室、不動産事業者、メディア事業者、大手通信企業	地域活動団体や旧住民を含め福祉・まちづくり等を専門とする大学・企業・NPOなどの事業コンソーシアム代表提案者他、建築系大学研究室＋ランドスケープアーキテクト等	代表提案者他、建築系大学研究室＋ランドスケープアーキテクト等
実施内容と成果	情報共有、意見交換する協議会（ララ荒浜コンソーシアム）を立ち上げ4回開催。情報共有、意見交換を行う。また、終了後、建築系大学研究室＋ランドスケープアーキテクト等にて計画検討も行った。 ・「インクルーシブ公園」の理念とその具体事例、計画プロセス等の詳細を把握することができた。 ・深沼ビーチクリーン（砂浜清掃）の参加者数推移、隣地市民農園の利用状況等の情報が得られ、当地へ来場需要の高さが確認できた。 ・福祉事業者によるインクルーシブ公園、コミュニティファームなどについて、放課後デイサービスの一環として、平日の利用の可能性が伺えた。なお、子連れ（障がい児含む）家族等が利用しやすい施設となる見通しが得られた。	現地参加者12名・オンライン参加者23名・登壇者7名・報道1名・スタッフ6名合計49名参加。 第一部 元住民や他の跡地利活用事業者の一部から、同計画に対する不安や懸念の声が聞こえていたが、トークイベントに旧住民、他の跡地利活用事業者などと顔を合わせて意見交換できたことで、関係主体間相互の信頼、協力関係を強化させることにつながった。 第二部 これからの荒浜再生における指針を共有。事例紹介や本事業の内容の情報発信を含めた新たな荒浜の文化とコミュニティづくりへのトライアルイベントとなった。 2021/03/14 荒浜記憶の継承みらい会議	協議会での議論・元住民へのヒアリング、6か所の事例現地視察、文献レビューなどを通して基本計画の検討を行った。 インクルーシブ公園の概要をはじめ、特に視察からはコミュニテファームやコワーキングスペース・シェアキッチンの具体な施設整備イメージの検討を行えた。 ▲ 2021/02/24第一回協議会 ▲2021/4/17からほり悠シェアキッチン視察 ◀2021/04/27 イシノマキファーム視察
次年度事業への提案反映	・インクルーシブ公園 ・カフェ・コワーキングス、シェアキッチン ・コミュニティ（ソーシャル）ファーム ・海辺の環境資源の有効性 等々、具体な施設等種別を計画することとなった。	震災前の荒浜の町並みや暮らしの共通点を「暮らしの方向感覚」や「祈りの場のしつらえ」をエッセンスとして、施設配置計画に反映させることができた。 	かつての荒浜の家並みを彷彿させる切妻屋根のパーゴラを施すことや施設機能の計画については、カフェやシェアキッチンの施設を中心に、広場と一体化したインクルーシブ公園、コミュニティファーム等の配置。また、景観スタディを通して、暮らしの気配を想起させるデザインを取り入れられた。

2021/03/14荒浜記憶の継承みらい会議


第1年
ヤマセ
イヴネ
東山堤
仙台
松林
海
海
イナサ
蔵王

インクルーシブな多世代交流拠点整備事業

□昨年度の事業育成型による成果

目的	事業コンソーシアム立ち上げと協議会開催・計画検討	旧荒浜住民及び地域活動団体とネットワーク形成・トライアルイベント等の「荒浜記憶の継承みらい会議」開催	事例視察やコミュニティファームを中心としたグランドデザインの基本計画策定
実施時期	令和3年2月23日～令和3年4月30日	令和3年3月14日	令和3年2月23日～令和3年4月30日
実施場所	NTTスマートイノベーションラボ仙台・ZOOM	荒浜海岸公園センターハウス・海辺の図書館・ZOOM	協議会終了後他、ZOOM等による計画検討や6か所の事例現地視察
実施体制	福祉事業者3社、NPO3団体、文化事業者3名、建築家3名、大学2研究室、不動産事業者、メディア事業者、大手通信企業	地域活動団体や旧住民を含め福祉・まちづくり等を専門とする大学・企業・NPOなどの事業コンソーシアム代表提案者他、建築系大学研究室＋ランドスケープアーキテクト等	代表提案者他、建築系大学研究室＋ランドスケープアーキテクト等
実施内容と成果	情報共有、意見交換する協議会（ララ荒浜コンソーシアム）を立ち上げ4回開催。情報共有、意見交換を行う。また、終了後、建築系大学研究室＋ランドスケープアーキテクト等にて計画検討も行った。 ・「インクルーシブ公園」の理念とその具体事例、計画プロセス等の詳細を把握することができた。 ・深沼ビーチクリーン（砂浜清掃）の参加者数推移、隣地市民農園の利用状況等の情報が得られ、当地へ来場需要の高さが確認できた。 ・福祉事業者によるインクルーシブ公園、コミュニティファームなどについて、放課後デイサービスの一環として、平日の利用の可能性が伺えた。なお、子連れ（障がい児含む）家族等が利用しやすい施設となる見通しが得られた。	現地参加者12名・オンライン参加者23名・登壇者7名・報道1名・スタッフ6名合計49名参加。 第一部 元住民や他の跡地利活用事業者の一部から、同計画に対する不安や懸念の声が聞こえていたが、トークイベントに旧住民、他の跡地利活用事業者などと顔を合わせて意見交換できたことで、関係主体間相互の信頼、協力関係を強化させることにつながった。 第二部 これからの荒浜再生における指針を共有。事例紹介や本事業の内容の情報発信を含めた新たな荒浜の文化とコミュニティづくりへのトライアルイベントとなった。 2021/03/14 荒浜記憶の継承みらい会議	協議会での議論・元住民へのヒアリング、6か所の事例現地視察、文献レビューなどを通して基本計画の検討を行った。 インクルーシブ公園の概要をはじめ、特に視察からはコミュニテファームやコワーキングスペース・シェアキッチンの具体な施設整備イメージの検討を行えた。 ▲ 2021/02/24第一回協議会 ▲2021/4/17からほり悠シェアキッチン視察 ◀2021/04/27 イシノマキファーム視察
次年度事業への提案反映	・インクルーシブ公園 ・カフェ・コワーキングス、シェアキッチン ・コミュニティ（ソーシャル）ファーム ・海辺の環境資源の有効性 等々、具体な施設等種別を計画することとなった。	震災前の荒浜の町並みや暮らしの共通点を「暮らしの方向感覚」や「祈りの場のしつらえ」をエッセンスとして、施設配置計画に反映させることができた。 	かつての荒浜の家並みを彷彿させる切妻屋根のパーゴラを施すことや施設機能の計画については、カフェやシェアキッチンの施設を中心に、広場と一体化したインクルーシブ公園、コミュニティファーム等の配置。また、景観スタディを通して、暮らしの気配を想起させるデザインを取り入れられた。

「ごちゃまぜ」でいこう

目指せ、ホップでソーシャルファーム

「ソーシャルファーム」とは、障がいのある人もない人も、うつ病やひきこもりなど社会的に弱い立場にある人も、みんなー
その実現を目指して農業に取り組む一般社団法人イシノマキ・ファームの代表・高橋由佳さんに話を聞きまし
同法人には、何人もの若者が県外から移住し入社していることから、裏テーマとして「若者を惹きつける魅力」も探っ

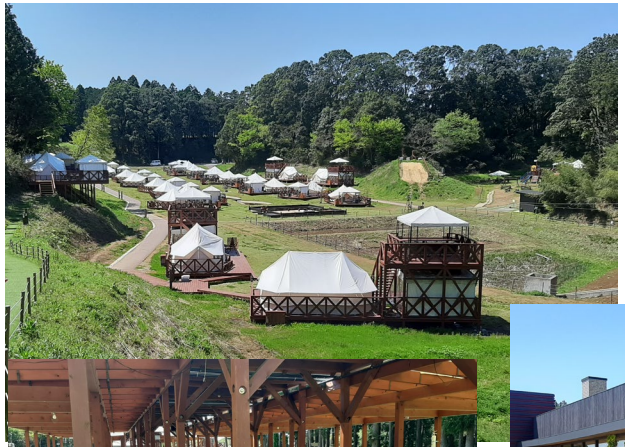
農は人をリカバリする

「イシノマキ・ファームはホップ栽培を中心とする農業」、心身の不調などを抱える人の就労をサポートする「中間的就労」、準在型の農業体験プ

利点と思い農地としての活用を見込みました。　形式で運営しています。利用者は毎週1回、ホッ　支部や仙台の醸造所ともコラボが実現しました。

◀▲イシノマキファーム視察

農園ガーデン空▼



▼農園リゾート
ザ・ファーム

▲からほり悠　シェアキッチン視察

インクルーシブな多世代交流拠点整備事業

□施設整備への考え方

1.子育て世帯、障がい者、高齢者等多様な人々が憩えるインクルーシブな居場所づくり

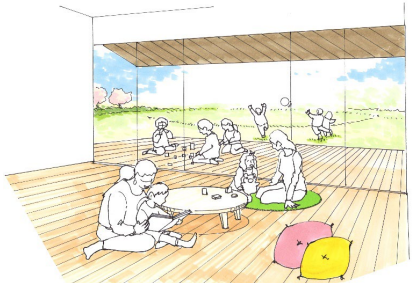
イベント広場を中心に、シェアキッチン、コワーキングスペース、
インクルーシブ公園、コミュニティファームを配置する計画とした。
①インクルーシブ公園：障がいを持つ子どもも健常の子どもも一緒に
自由に遊べる場。
②シェアキッチン：屋内外を利用してパーティー会場として使用できる空間。
③コワーキングスペース：平日は子連れ利用客、ワーケーション的な利用を
想定。休日は一体的にカフェとしての利用を想定。
④コミュニティファーム：区画割した農園を貸し出すエリアと、広い農園を
就労支援や農作業体験として使用する空間とで分けて配置。

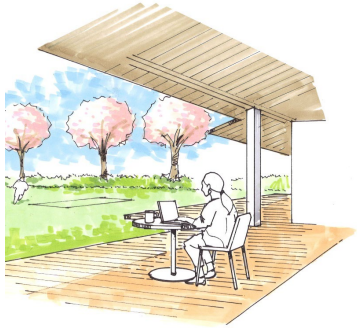
2.荒浜の記憶の継承と祈りの場としての風景づくり

①暮らしの方向感覚
「暮らしの方向感覚」を基調とし、かつての荒浜の自宅の居間にいる感覚が
得られる空間づくりを目指す。
②変わらない風景の継承
元住民も故郷に帰ってきた実感が得られると想像する。その他、近景として
地区内道路、井戸などを積極的に活かした計画とする。
③祈りの場のしつらえ
お盆に貞山堀を活用し行われる先祖の魂を送り迎えする灯籠流しの日などは、
元住民の再会の場としても使用できるよう、イベント広場を設けている。

3.　海辺の環境資源を活かしたアンコンパクトなレジャー空間

海辺のワーケーション、グランドゴルフで健康寿命の延長、海辺のマルシェなどに活用

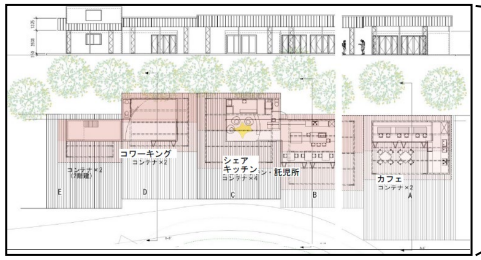




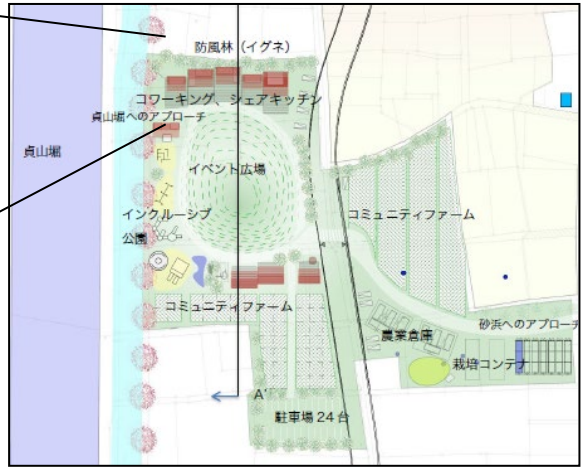
インクルーシブな多世代交流拠点整備事業

□本年度の事業概要

令和３年度 住まい環境整備モデル事業〈事業者提案型〉



土地利用全体概要図



１．実施設計費・施設整備

２．技術の検証

①当地における地域交流拠点としての利活用や運用検証

・元荒浜住民などと地域性を考慮したイベントや運営等

・託児機能等の子育て支援体制の検討

②設計プロセスにおける障がい者支援団体等との意見交換

③設計プロセスにおける市民・企業の参加

④子育て世代や障がいを持つ方向けの安全性向上を目指したICTの活用

⑤当該施設および周辺の施設を活用したワーケーションコンテンツの開発

３．情報提供及び普及

①オープニングイベントや特別イベントの開催

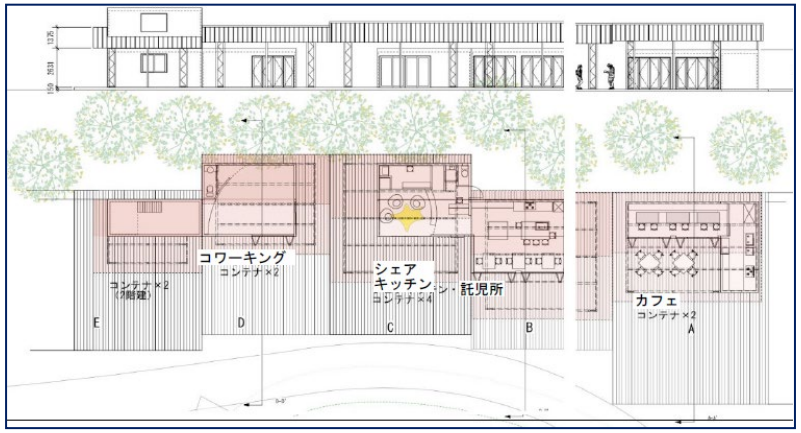
②本事業の情報発信やイベント開催告知等

③ハンディキャップサポート　ワークショップの開催（オープン後対応）

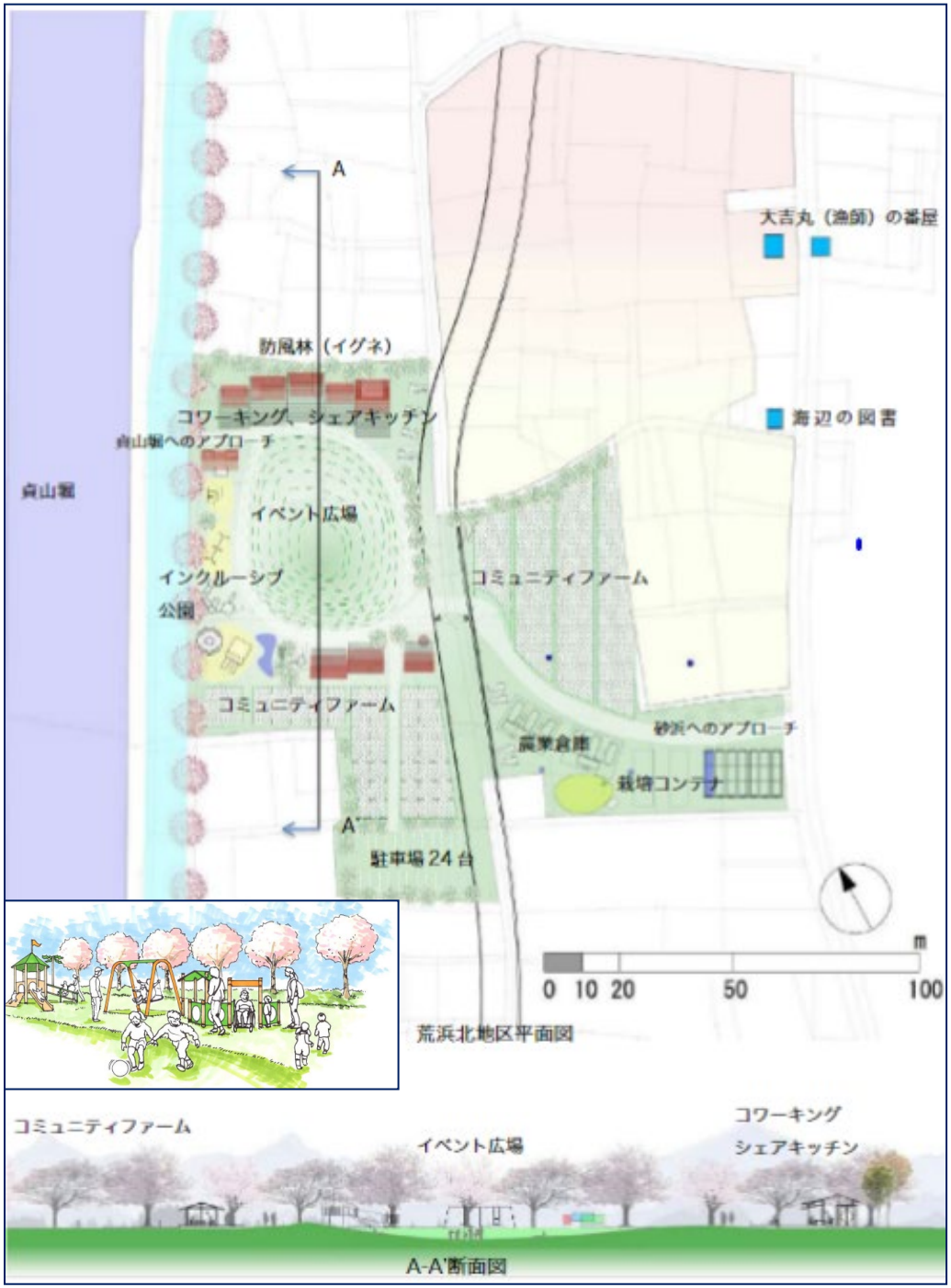
〈年間イベント・オープン後予定〉

毎月　荒浜マルシェ
（深沼ビーチクリーンとコラボ）

１月	初日の出	８月	灯籠流し・盆踊り
３月	震災追悼	９月	ハゼ釣り
４月	お花見・苗植え	10月	「おめげっつぁん」（お月見）
５月	サーフィン	12月	イルミネーション


コワーキング
コンテナ×2
シェア
キッチン
カフェ
コンテナ×2
E
D
C
B
A

空間スタディ模型写真


A
A'
大吉丸（漁師）の番屋
防風林（イグネ）
コワーキング、シェアキッチン
貞山堀へのアプローチ
貞山堀
海辺の図書
イベント広場
インクルーシブ
公園
コミュニティファーム
コミュニティファーム
砂浜へのアプローチ
農業倉庫
栽培コンテナ
駐車場 24 台
0 10 20 50 100
m
荒浜北地区平面図
コミュニティファーム
イベント広場
コワーキング
シェアキッチン
A-A'断面図

インクルーシブな多世代交流拠点整備事業

□事業体制図

仙台市

協定締結・借地契約等

ラララ♪荒浜コンソーシアム

事業主体

今野不動産株式会社
- 協議会運営
- 情報発信
- 事例調査

連携

事業コーディネータ

つなセン TSUNAGARI Design Center
- 基本計画コーディネート
- 事業検討コーディネート
- トライアルイベント企画運営
- 事例調査

NOMURA GROUP 株式会社乃村工藝社（事業全体サポート等）

障がい者・子育て支援団体

- エイブルアートジャパン
- ママンココン
- すんぷちょ

ICT・運営協力事業者

- NTT東日本　宮城支店
- ゲストハウス「梅鉢」

福祉事業者

- (株)ミツイ リッキークルーズ・パーク
- (株)未来企画 アンダンチ
- 社会福祉法人 ライフの学校

建築まちづくり・農業の専門家

- 建築設計事務所（環境デザイン・アトリエ等）
- 東北工業大学 新井研究室・畠山研究室
- 宮城大学森本研究室 平松農園他

旧住民の活動・跡地利活用事業者

- 海辺の図書館
- Hope For Project
- めぐみキッチン